

学校支援地域本部 地域コーディネーターハンドブック



千葉県教育委員会

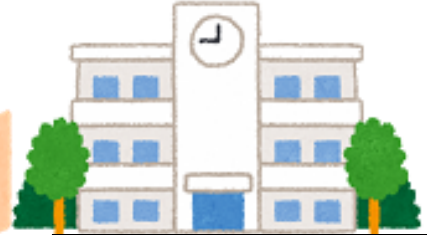
学事課

「つなごう！つなごろう！地域と学校」



地域コーディネーター

地域教育協議会



地域ボランティア

学校・教職員

自分を生かし、人とのかかわりを大切にして、子どもたちの学びを支え、地域を元気にしたい。

連携・協働

子どもたちの学びを深めたい。子どもたちに元気で安全・安心な生活をしてほしい。



「子ども」と「地域」の未来づくり

地域の資源を生かして

地域から 学校から

生き生きとした

まちづくりへ！

学校支援地域本部とは

地域住民や保護者、関係機関などの参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、地域づくりをめざす活動です。例えば、学校にかかわるボランティア活動としては登下校の見守りや図書館整備などが、地域活動にかかわるボランティア活動としては地域防災活動や地域美化活動などがあります。

はじめに

千葉市では、平成25年度から、学校を核として、ひとづくりとまちづくりの好循環を生み出すため、学校・家庭地域が連携協働する仕組みとして、学校支援地域本部の取組をスタートしました。毎年10校ずつ設置校を増やし、「地域とともにある学校づくり」を進めています。

本冊子は、地域コーディネーター向けの活動ハンドブックですが、学校関係者や地域教育協議会の方々、地域ボランティアに参加されている方々にもご覧いただき、子どもたちの学びと成長を支える活動を一緒に進めていきたいと考えております。

1 千葉市の学校支援地域本部の活動に向けて

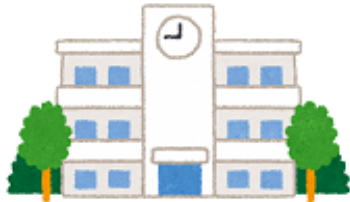
私たちを取り巻く社会環境が大きく変化し、学校だけに教育を任せるのではなく、地域全体で子どもたちの成長や学びを支えるとともに、参加する地域住民も楽しみながら一緒に学び、そこで生まれるつながりを土台にして、地域活動が盛んになるような新たなつながりが生まれる「学校を核とした地域づくり」が必要になっています。

また、厳しい時代を乗り越え、自立した人間として、他者と協働しながら未来を創り出し、課題を解決する力を育成する「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて学校と地域の連携・協働が必要になっています。そのため、千葉市では、地域と学校が連携協働する仕組みとして「学校支援地域本部」を設置し、地域ぐるみで子どもたちを育てる教育活動を話し合う「地域教育協議会」を設置し取り組んでいます。学校が目指す目標や方向性については、地域教育協議会において話し合っていきます。

(1) 学校支援地域本部の目的

学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで子どもたちを育てる体制を整備する

(2) 期待される効果

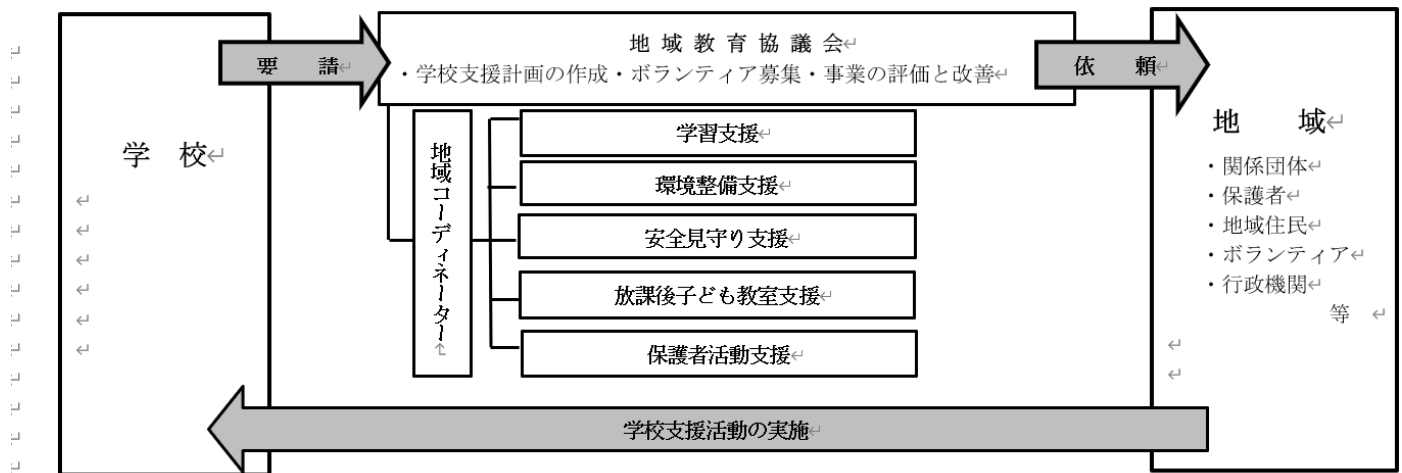


学校教育の充実
◎保護者や地域社会の協力により、児童への個別支援や体験活動が充実し、学びが深まる。

地域における生涯学習社会の実現
◎知識や経験を生かし、学校の教育活動に貢献する機会が増え、自己実現や生きがいづくりにつながる。

地域コミュニティの活性化
◎学校支援活動にかかわる地域住民間の新たな連携ができ、地域の活性化につながる。

(3) 学校支援地域本部組織図



※ 地域教育協議会とは

- 支援活動の内容（規模・時期等）について検討・調整を行い、学校支援地域本部事業の推進を図る。
- 年度末に、実施した支援活動について検証・評価を行い、次年度の方針を決定する。



2 地域コーディネーターとは

(1) なぜ地域コーディネーターが必要なのでしょう

- 教育活動をより豊かにするために「教師の力 100% + プラス地域の力 α で子どもを育てる」活動を行ってきました。これまでは、学校が地域や保護者に呼びかけて子どもたちの成長や学びへの協力を得てきましたが、さらに地域の力を活かした教育活動を行うため、地域コーディネーターが必要になっています。

(2) 地域コーディネーターの役割

地域コーディネーターは、学校の教育的ニーズと地域の力（地域学校協働ネットワーク等）をつなぐコーディネーターです。

- 学校の教育活動への協力、協働の呼びかけ

地域コーディネーターは、地域教育協議会に参加し、学校運営方針や教育目標を共有したうえで、独自のネットワークを活用し、学校の教育活動（学習支援、特別活動、総合学習等）への協力の呼びかけや人材の紹介派遣依頼、運営サポートを行います。

- 学校と地域が一緒に活動を作り上げる（協働の）ための調整役

地域コーディネーターは、学校とボランティアや支援団体をつなぐだけでなく、学校側の教育的なねらい、ボランティア側の思いなどを受け止めて、一緒に活動を作り上げていくお手伝いをします。

- 活動を続けるためのフォローアップ

地域コーディネーターは、活動後にボランティアや先生からの気付きや感想等を双方に伝え、次の活動に活かします。特に初めての活動の際には、次の活動の参加へつなげるためにも、このようなフォローアップが重要です。活動内容を地域や学校で共有することも大変重要です。

地域の暮らしを豊かにするために地域コーディネーターが学校とボランティアや支援団体を結び付け、地域の子どもの成長を支える活動に参加してもらうことで、一人ひとりの生きがいや団体活動のモチベーションアップにつながります。

また、地域の人同士のつながりができ、地域の暮らしを豊かにすることにもつながります。

(3) 活動例 (地域の力を活かした教育活動例)

① 学習支援 (子どもたちの多様な体験活動 例: 伝承遊び、自然観察教室など)



★昔遊び(坂月小)

1年生の生活科で行う、昔遊びに参加していただき、「おはじき」「あやとり」「こま」「けん玉」など昔遊びを教えていただいたり、一緒に遊んでいただいたりした。子供たちが知らない遊びが多かったので、教えていただくことで覚えて、休み時間に熱心に遊ぶ姿が見られた。遊びの数同等に大人がいたので子供たちは十分に遊びを楽しむことができた。



★自然観察会 (横戸小)

年間10回にわたり、5名の自然観察指導員の方と一緒に、本校の学校林において動植物や自然環境の観察や実験、自然物を利用した遊びなどを行った。毎回、そのときの理科等の学習内容や季節に合わせた活動を展開していただき、児童にとっては充実した学びの時間となった。



★やごとりボランティア「やご救出作戦」(菅田小)

保護者ボランティア 17人で実施。

2学年 生活科 の学習で「やご」を育てるため、プール清掃の直前に「やご救出作戦」として実施。救出している間、2年生の児童がお礼を伝えに来るなど、交流を図りながら進めた。



★書き初め (高洲四小)

3年生以上。書き初め教室(練習)と席書会(清書)の2回に来ていただいた。毛筆の筆の持ち方や姿勢、それぞれの文字を丁寧に教えていただき、上達した。



★読み聞かせ活動(花見川小)

週ごとに輪番ですべての学年に「図書ボランティア」が学級に入り、読み聞かせを行った。本校では火曜日と木曜日に「朝読書」の時間を設定しており、読み聞かせは木曜日に実施。地域の有志や保護者の方が学年に合った絵本を選定していただき、子供たちは毎回静かに聞き入っていた。

地域コーディネーターと本校の図書館指導員と協力し、打合せの場を設け、日程調整や反省会を行った。



☆ミシン学習ボランティア(弥生小)

5年生の家庭科ミシンを使った学習で、強力な助っ人として参観していただいた。丁寧にサポートしていただき、短時間で作品を仕上げることができた。



☆総合的な学習の時間 ゲストティーチャー(弥生小)

3年生の地域学習で、まちの祭りを扱った。地域の祭りを運営する方をお招きし、地域に続く祭りの内容や、それを支える方々の思いや願いをインタビューする活動を行った。

タブレットを使った調べ学習と異なり、相手の反応を伺ったり、追加質問をしたりする調査活動は、新しい学びとなった。またこれまで祭りに参加したことがなかった子も参加したい、と話しているなど、地域に対する興味が深まった。



☆職場体験(積橋中)

コロナ禍による影響のため、数年来滞ってしまった体験学習のため、改めて受け入れていただける業者の選定作業において、地域と密接なかかわりを持つ方にご尽力いただき、学校の近隣地域に職場体験を受け入れてくださる会社を紹介していただいた。

今年度実施する学年からの要望により、遠方に出向くのではなく徒歩圏内で行える場所を探していた。学校と地域が結びつく良い機会ととらえ、学区内に存在する多くの企業・会社と連絡を取り、快く承諾をいただき職場体験を実施することができた。



☆部活動支援(轟町中)

学区のスポーツ推進委員の方をコーディネーターに迎え、部活動の支援という方向で協力していただいている。

野球部支援は、3年目を迎え、2名の方にご協力いただいた。専門的な技術指導、練習試合の審判等ご協力いただいた。

バドミントン部支援は、部員数も多く、顧問1名での指導体制が厳しいため、練習や試合等でのアドバイスできる方をご紹介いただいた。本校の卒業生であり、部活動後も社会体育として、広くバドミントンの普及にあたっている。

② 環境整備支援（例：花壇づくり、校内美化活動等）



☆清掃活動（千草台小）

保護者ボランティア103人で実施。1年生は、雑巾の絞り方やほうきの掃き方を教えてもらい、掃除の仕方が上手くなった。保護者としても、「我が子と掃除ができてうれしかった」等があった。



☆プール掃除(生浜小)

保護者ボランティア10人で実施

☆除草・落ち葉掃き作業

保護者ボランティア15人で実施

☆側溝の土取り作業

保護者ボランティア7人で実施



☆プール清掃(千城台東小)

おやじの会と保護者ボランティア 15人で実施



☆晩秋の清掃活動(幸町二中)

小中学校・育成委員・美浜区郵便局など地域と連携協力して実施。ボランティア活動計画を千葉市中央・美浜公園緑地事務所に申請し、同場所へ落ち葉の回収を依頼した。

小学校と中学校で案内文書を配付し、保護者の参加も促した。当日の朝8:50に幸町公園に約300人が集合し、2時間程度を目安に公園周りの清掃活動を行った。(落ち葉掃きとゴミ拾いがメイン)



☆花壇整備（都賀中）

保護者ボランティアで、春と秋の2回のべ14人で実施。花の種類や花壇のデザインも考えていただいた。

③ 安全見守り支援（例：見守り、あいさつ運動など）



☆セーフティウォッチャー活動

子供たちの登下校の見守りを保護者、地域の方に協力していただいた。



☆登校の見守り(生浜中)

生徒の登下校の見守り兼ねたあいさつ運動を実施した。正門と西門に分かれ、朝の登校時に保護者、教員及び当番になったクラスの生徒で、約30分の間登校してくる生徒にあいさつやこえかけをした。年間7日、延べ484人が参加した。



☆「見守りボランティア」(泉谷中)

子供たちの登下校の見守りを保護者、地域の方に協力していただいた。年間200日、延べ約1500人が参加。

☆「地域パトロール」

子供たちが安全に生活できるよう、保護者、地域の方に協力していただき行った。今年度はパトロール時間を工夫し、年間4日延べ80人が参加した。



☆ながら見守り活動(磯辺中)

保護者や地域の方々に散歩や買い物等の途中で見守り活動に協力していただいた。

【見守り支援（ながら見守り）のチラシ】

④ 保護者活動支援



☆みどり小まつり（緑町小）

保護者を中心に地域や開放団体に声をかけ、有志で校内に遊べる場を用意したり校庭に飲食店を出品したりして祭りを実施した。全校でかかわる行事が少なくなっている中、異学年や同学年の友達と校内を回ったり保護者が学校の様子を感じたりするよい機会となった。



☆柏井ふるさと祭り出店・手伝い(花見川中)

出店するにあたり、打ち合わせを行い、それぞれ立場（保護者、生徒、教職員）から意見を言い、検討を重ねた。当日はお手伝いの生徒を含め、約15名の生徒が参加し、かき氷を売った。キャリア教育の一環として非常に良い経験となった。

⑤ 放課後活動支援



☆放課後子ども教室(くすのきっ子クラブ)

NPO 放課後子ども教室事業の協力を得ながら、放課後子ども教室を7月から月1回程度木曜日に設定。地域の方、保護者ボランティア、外部機関に協力いただきながら体験活動の充実を図った。

3 成果と課題（学校より）

【成果】

☆教育活動の充実・学習効果の向上

- 豊かな経験を生かした指導を受けることができ、教育活動の内容が充実した。
- 地域について学ぶ機会が増え、学校行事を含む教育活動の内容が充実した。
- 各教科等（国語-読み聞かせ・書写・生活科・家庭科・体育・図工・生活科等）の教育活動の内容が、本物に触れることができたり、ミシンのお手伝いをしてもらったりして充実した。
- 主に算数科等の学習支援に入っただき、配慮が必要な児童に丁寧に指導を行うことができた。また、自然観察会や昔遊びについては教職員が指導するよりも、より深く児童が学ぶことができた。
- 地域の人材活用により専門的な指導をしていただくことができ、個に応じた指導が充実した。
- 苦手教科の克服に役立った。経済的困難家庭の生徒にとって学習の場が提供された。
- 職員だけでは、生徒を地域で活動させるために見守る大人が足りないので、行事の安全な運営につながった。

☆学校支援活動参加者の様子

- 学校支援活動の参加者から手応えや、やりがいを感じる感想が多く寄せられた。また、連携を深めることで、学校整備への協力体制が構築できた。「子どもたちと活動することで、なんだか元気をもらえた。」等の声もあがった。

○学校支援活動の参加者から学習の様子を知る機会が得られたことの感想が寄せられた。

☆地域への意識向上

○地域の方々との関わりや小学生との活動により、地域の一員としての自覚が高まった。

○保護者と生徒、職員で協力して環境整備を行うことで、学校や地域をより大切にしていこうという意識が高まった。

○生徒総会でボランティアについての話題が挙がるなど、ボランティア活動に関する意識が高まった。

○全校生徒で取り組んだことで防災意識の醸成につながった。また、一斉ボランティアには生徒の6割の生徒の参加があり、地域環境整備も含め実りある取組となった。

☆働き方改革

○準備や実施の負担が大きい活動や作業をお手伝いいただき、教職員の負担を軽減することができた。また、その分、教職員が児童に向き合う時間を作ることができた。

○地域を知らない教員にとって、とても助かり働き方改革にもつながった。

○学校側の要望を理解した上で支援してくださっているため、無理のない範囲での活動できている。

○朝の時間に定期的に読み聞かせの時間を確保することで、本の世界に親しむことができるとともに、読書ボランティアの方が中心に行ってくださったため、担任の負担軽減にもつながった。

☆その他

○今年度、千葉経済短期大学との連携により、多くの学生ボランティアを活用できた。短大としても、本活動を「実習要件」（令和7年度からは履修科目とし単位化する）とすることで、人手が欲しい本校と相互利益となった。

○昨年度、課題で上がった「学校地域支援本部」に係る保護者の理解が深まった。学校だより等による周知や学校地域支援本部の活動を昨年度から積極的に行ってきたことが奏功した。

○委員の協力を得て、セーフティーウォッチャーの新規登録をすることができた。特に「ながら見守り」の協力を依頼することに効果があったため継続したい。

【課題】

☆打ち合わせ等連絡

●学校の要望（学習の目的や活動内容、時間等）をご理解いただきながら、ボランティアの方々の思いも大切にしたい。事前の打合せで丁寧な説明と計画の調整が必要となる。

●連絡や調整などを全てコーディネーターに任せることは難しく、どうしても学校が間に入ることになる。

☆人材の確保

●地域教育協議会のメンバーを見直し、地域の特色にあった人材を確保していく必要がある。

●地域住民の高齢化がかなり進んでいるため、ボランティア人材がなかなか集まらない。

☆支援体制の構築

●学校側に地域と連携する、管理職や教諭以外のコーディネーターが必要である。

●学校から支援を要請する事柄の精査が必要である。

☆その他

●事務局、学校、育成委員会、PTA等の組織との連携。手紙やはがき以外の連絡方法の検討。

●学校支援ボランティアの確保に向けた地域への情報発信を工夫していく必要がある。